

2026 年 9 月 18 日
城西支部国際部
(深瀬 豊)

緑と活気の国、ウガンダ ～5 年間暮らして見えた素顔～

過日、妻が吉祥寺中道どおりにあるカフェでウガンダのコーヒー豆を買ってきてくれた。私自身、コーヒーに詳しいわけではないが、ウガンダのコーヒーはいつ飲んでもおいしいと思う。それは、やはりウガンダに5年近くいたことによる、ウガンダに対するひいき目のせいなのだろうか。

ウガンダのコーヒー豆



出典：筆者

皆さんは、「ウガンダ」と聞いて何を想像されますか？アフリカ、赤道直下、危険な国、野生動物でしょうか。あるいは、「名前は聞いたことがあるけれど、どんな国なのかはよく知らない」という方も多いかもしれません。

私は仕事の関係で、2016 年から 2021 年まで約 5 年間、ウガンダの首都カンパラで暮らしました。

赴任する前の私自身も、ウガンダについて十分に知っていたとはいえません。しかし、実際に暮らしてみると、赴任前に抱いていた「アフリカ」のイメージとは異なっていました。

まず驚いたのは、緑の多さと気候の穏やかさです。赤道直下と聞けば、猛烈な暑さを想像するかもしれませんが、しかし、首都カンパラは標高が高く(標高約 1200m)、年間を通じて穏やかな気候です。そして、雨も程よくふり、緑が多く、思いのほか過ごしやすいところです。

カンパラの様子



出典：筆者

ウガンダでサファリ・・・あります。カンパラから道路距離にして約 300km、マーチソン・フォールズ国立公園があり、そこでは、野生動物が圧倒的な存在感を示しています。人間という存在が小さなものに感じます。

普通に近寄ってくるゾウ



出典：筆者

そして、地平性が見えるような雄大な景色。躍動する動物を支えるこのような環境はいつまでも残ってほしいと思います。

マーチソン・フォールズ国立公園の景色



出典：筆者

他方で、私が普段暮らす首都カンパラは、多くの人で活気に満ちており、交通渋滞は日常茶飯事です。豊かになり、車を持つ人が増えたのは良いものの、基本的な

道路の状況も良くなく首都であっても道路には穴が開いていたりあまり快適ではありません。

当時の通勤の様子



出典：筆者

それにしても、人、車、バイク、商店、市場……街にはものすごい活気があります。

カンパラの街中の様子



出典：筆者

5年近く暮らして、最も印象に残ったのは、やはり人々です。私が暮らしていた当時、生活環境や衛生面では厳しさを感じることもありましたが、そういった中でも逞しく生きていました。私が出会った多くのウガンダの人達は、穏やかで人懐っこく、笑顔で何気ない会話したことも、今では懐かしい思い出です。緑豊かな大地、雄大なサファリ、活気と渋滞にあふれるカンパラ。そして、厳しい環境の中で逞しく生きていく人々。これらすべてが、私にとってのウガンダです。

冒頭のコーヒーを飲みながら、久しぶりにそんなウガンダの日々を思い出しました。やはりウガンダのコーヒーがおいしく感じられるのは、少し「ひいき目」が入っているのかもしれませんが。

冒頭写真のウガンダのコーヒー豆と他の豆のブレンド



出典：筆者

以上